

一日研 報告

- 1 期日 2月21日
- 2 場所 総社市東公民館
- 3 参加者 O AK AS[O CH YO AR
- 4 内容

書籍紹介『読書と社会科学』内田義彦 (O)

授業記録・映像『やまなし』(YO)

授業記録・映像『あとかくしの雪』(AK)

授業記録・映像『世界一美しいぼくの村』(AS)

授業記録『たんぼぼ』(AR)

戸田実践『あとかくしの雪』(CH)

YO学級の子どもたちは、常に言葉から離れずに発言をしていました。これは、2年間でYO先生が、積み重ねてきたからこそです。YO学級のように、言葉について発言できる子どもを育てたいです。記録の検討では、登場人物の「予想」で問題を作るのが1つのパターンとなりうるのではないかという話が出ました。「予想があるのか、ないのか。」「やまなしじゃないなら、何だと思って（予想して）いたのか。」などです。

いくつかの記録の検討を通して、教師の仕事が話題に上がりました。その中でも、ついてこれていない子がいないか気に掛けること、明確な問題を提示してそういった子たちを授業に入れていくこと。これから、意識していきたいです。文責 AR

子どもがいっぱい意見を言うような授業をしたいと思うのは誰も同じです。しかし、それが目的になると学習内容の質が問題にならなくなってしまいます。「子どもが出した意見はどんなものでもよくしたい」という考えは大事ですが、それが目的になると発言しにくい子の考えはつい取り上げてしまいます。時間をかけすぎると話し合う内容が深まっていきません。

言葉から自分らしいイメージを言うことは大事なことです。どんどん教材から離れる危険性を持っています。発言のどれをとり上げて深めていくのが大事になります。広がって收拾がつかなくなるという意味で言葉や文のイメージを持たせることは焦点化が難しいですが、納得する・腑に落ちるために必要なツールだと思います。イメージと納得についてもっと考えていかなければと思っています。文責 CH